

第5回 那須烏山市総合政策審議会 会議録

日 時：平成27年12月24日（木）午前9：30～

場 所：烏山庁舎2階 第2会議室

■ 会議次第 ■

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 協議事項

(1) 総合戦略に関する政策・施策（案）について

- ①政策の基本目標
- ②施策の展開
- ③具体的取組及びK P I 指標

4 その他

- (1) 若い世代等のこれからの生活に関する意識調査 結果報告書
- (2) 今後のスケジュール

5 閉 会

■ 出席者 ■

（審議会委員） 中村会長、八木沢委員、堀江委員（代理）、棚橋委員、両方委員、滝口委員、小幡委員（代理）、萩原委員、小堤委員、矢口委員、町田委員、江口委員

（総合政策課）

－秘書政策室－ 福田室長、水上課長補佐兼総括、田代課長補佐、関課長補佐

■ 意見概要 ■

4 協議事項（1）総合戦略に関する政策・施策（案）について

- ①政策の基本目標
- ②施策の展開
- ③具体的取組及びK P I 指標

－基本目標①について－

会長：提示された具体的な取り組みを皆さんがどう捉えるか。正確な言葉でなくても構わないので、「こういうものがあれば」というような内容があれば自由に発言いただきたい。審議会として働きかけていきたい。例えば、「地域おこし協力隊が終了した後には起業化を促す」といった施策など、「★」印の付された内容はかなり思い切ったものに見受けられる。実践しなければ意味はないが、その部分を追及するだけでもすごいこと。

委員：雇用創出を一番に考えること。そのためには本市が持っている資源、今まで着目されてこなかったものなどを有効活用すべき。

例えば、山・水・川などを活用した新たな産業づくり、他地域と比較して優位に立てる資源の掘り起しが重要だと思う。もう一つは、現在ある事業の裾野を広げ、そこに雇用を生み出していくという方法。現在、酒造産業は1社で展開しているが、醸造の過程で生じる酒粕を活かし、例えば、地元の農産物と結び付けた奈良漬の開発など、新たな領域への進出も視野に入れてほしい。お酒の醸造に使用する洞窟は発酵産業にとって大変貴重な場所である。多くはなくとも雇用にもつながるはず。観光客を誘致することも大きな産業となる。塩那丘陵を活かした畜産や、バイオマス発電にも有効な木材の育成なども考えてほしい。こうした内容を、コーディネーター・事業者・金融機関・農林生産者などが一堂に会するこの場で議論いただくことが大事だと思う。

- 事務局 : 酒粕などは良いアイデアだと思うが、具体的に総合戦略内に盛り込むことは難しかった。記載にあるように「実践型雇用創造協議会」が新たに立ち上がる予定。そうした機会に新商品開発についての検討が始まれば有り難い。
- 会長 : 今回は検討・調整の過程で文言の記載はなかったが、今後こうしたご指摘が活きてくる。「実践型雇用創造協議会」が設置された際には、そこで取り扱う品目について、審議会委員として主張を続けていただきたい。
- 委員 : 数年前、駅前に「子育てサロン」を設置したが、施設の近隣住民とのマッチングが上手くいかずに1年半ほどで撤退となった。私達はそれを、時期ではなかったからだとして理解しており、また条件を整えば行いたいと考えている。委員の皆さんの話はここで終わりではなく、機会があれば必ず実現できると信じている。
- 会長 : 重要なお指摘。総合戦略に記載されている、記載されていないではなく、これを取っ掛かりのものとしていけば、我々はこの先も追及していくことができる。
- 委員 : 比較優位でいけば、県内でも本市は那珂湊市に近接するまちである。そこの提携・事業も十分に考えられると思う。長期的には、アクセス時間を短縮するための取り組みも検討すべき。
- 委員 : 「新たな産業の創出」について。国見のみかんのブランド化を図ったらどうか。ひとまとめにドサッと売るのではなく、価値を高めるために化粧箱に入れて販売するなどの取り組みを市が支援することはできないか。
- 会長 : 那須烏山市はみかん栽培の北限となるのか。
- 委員 : みかん栽培が商売として成り立つ地の北限である。最近は人気が高いが、中山かぼちゃと同様に栽培量そのものが少ない。お客さんからみかんを買いに行ったのになかったと苦情が出るほど。冷害で木が枯れたり、栽培農家が5軒にまで減っていることが影響。
- 会長 : 一見して弱みのようなのだが、それをオープンにすることでさらに人気が出ることも考えられる。
- 委員 : 若者の流出や後継者不足などの問題がある。木を抜いて廃業してしまうのが現実。フタバ食品にみかんアイスを増やせないか相談もしたが、原材料確保の問題でこれ以上は限界だと断られた。
- 委員 : 利益が上がらないのは生産性に問題があるから。儲かる話であれば当然誰かが引き継ぐ。そうした産業の仕組みを作らなければいけないと思う。かぼちゃを使ったケーキやプリンなど、ブランド化につながる新たなものを工場・販売所で一貫して作っていくようなことが大事。

- 会長 : 国見のみかんを取り巻く環境が厳しいという点も演出することができれば、ブランド力を高めることにつながるはず。
- 委員 : 記載のある「農業公社の分立化」とはなにか。農業に携わる人達も高齢化が進み青息吐息の状態。土地も機械もあるが働き手がない農家を助けることができる会社があればこれほど良いことはない。そうした仕組みを市が支援できれば。
- 委員 : 現在の農業公社は公益法人であり、田植えや稲刈りなど農作業の受委託までが業務の範囲となる。もしも最初から最後までそっくり請け負う場合、それは農業を経営するということになり、現在の公益法人では対応できない。そうした耕作権を得るためには、分社化して株式会社化するか、農業生産法人とするかの対応があり、これから検討する必要があるが、先ずは分立して農業自体を営める組織を作ろうということ。会社を作るので社員を雇用する話にもなるし、農家の後継者でなくとも農業をやりたい人が会社に入って業務に就くということも起こり得る。独立したい人がいれば耕作権のある農地をその人に預けるようなことも考えている。そのための動きが始まっている。
- 委員 : 「市民協働によるまちづくり」について。市の公民館事業として、行政の課題や政策について市民の意見やアイデアを聴く機会を設けてほしい。
- 委員 -基本目標②について-
- 委員 : 本市の宇都宮市との近接性を活かした定住支援を促進すべき。若者が経済的に負担できる範囲の分譲地を提供するなど。付属の土地を行政が手当してあげ、家庭菜園などの付加価値をつけることも検討してほしい。
- 委員 : 現在進行中の話として情報提供。南那須出身で現在はドイツに住む観光業を生業とする60歳過ぎの事業家が、実家に戻り、日本の地方の良さを海外に伝えたいということで活動している。少し変わった日本を観光したいという外国人の層に、本市のこの場所を紹介したいということである。新しいものを作ることも良いが、違う場所から眺めてみれば本市の環境自体が素晴らしいといえる。泊まる場所・移動手段などが最低限必要になるが、そうした人達の思いが形になるようサポートができると良い。
- 会長 : 重要なお意見である。ホームページなどで情報を発信するなど出来ることは多いと思う。
- 委員 : ホームページの件に関連して。鴻野山在住の“三木美穂”さんは、アフィリエイトの指南本や専門書を著作・出版されており、ホームページをどのように掲示したらアクセス数が増えるのかなどについて、全国的に発信している著名な方である。老人クラブのホームページ作成の際にもお世話になった。指南を受けるために話をつなぐことは可能であるし、地元の人脈を活かしてほしい。
- 会長 : 今の話を総合戦略に盛り込むことは無理でも、行政が既に行われている活動の側面支援を行っていくことが大事である。
- 委員 : “定住支援対策の充実”について。介護施設は含まれていないが、本市の安価な土地を活用した年金生活者を対象とするペンション村などは、行政がフォローアップさえすれば展開できると思う。
- 委員 -基本目標③について-
- 委員 : 婚活について。一時の気持ちの高まりで結婚してしまうと破たんの心配がある。そうなれば子どもが一番の被害者。

例えば、梅酒づくりの過程を通じ、定期的に愛を育ていけるような仕組みであれば、結婚に踏み切れない若者達にも馴染むのではないか。

会長 : 7ページに並ぶ★印の付された取り組みについて、どのように実現していくかが大事になる。県内でも那須烏山市の英語教育は評判である。うちの子も那須烏山市で学ばせたい、というような芽も出てきている。

委員 : 「保育の質・量の充実」について。以前に取材したことのある幼稚園は、周辺から相当数の子ども達が通っていたが、教育の内容も素晴らしいし、“おやじ会”など保護者の活動も積極的に展開されていた。施設が量的に確保されていても質が伴わなければ外に流出してしまう。中身の充実が大切。

会長 : これまで那須烏山市の人達と接する限り、非常に他者を立てるといふ素晴らしい気質があると思う。それはこれまで良い試みをしてきたから。長年にわたり続けてきた良いものを、この総合戦略を契機としてオープンにし、周囲に発信していくということだけでも凄いと思う。

委員 : 「妊娠・出産支援」に関する話題について。那須南病院には産婦人科がない。是非、設置に向けた働きかけを行い、安全・安心に出産できる環境を整えてほしい。

事務局 : 那須南病院に関するご意見は様々な場所から頂戴している。基本目標④には“那須南病院の機能強化”の取り組みが位置づけられており、産婦人科の件も含めた検討を進めたいと思う。

—基本目標④について—

委員 : 「烏山駅前整備構想の策定」について。ここに記載はなくてもよいが、以前にあった「子育てサロン」のような施設の設置も検討してほしい。

委員 : 以前に駅前で開設した「子育てサロン」は、近くに無料駐車場があるなど利用利便が高く、人の目にも留まる施設であった。もし、「烏山駅前整備構想」の策定内容・進捗状況などが分かれば可能な範囲で教えてほしい。

事務局 : 烏山駅前においては、以前のJRバス関東の用地を市で購入し、無料駐車場の用地と併せ、現在は約5,200㎡が更地となっている。この土地については、短期的な取り組みとして、7月中旬を目安に多目的広場・そば店兼観光案内所等の整備を予定している。なお、整備構想については、長期的な視点を踏まえた対応をとりまとめるものとなる。現在のJR烏山駅の乗降客数は平日で1千人、土・日はその半分となっている。

会長 : 栃木県の中央部を東西に横断する鉄道路線について、西の横綱がJR日光線であるとすれば、東の横綱はJR烏山線となる。そうした意味合いでも烏山駅前を核としてほしい。

委員 : 「英語ビレッジ構想の推進」についての現状はどうか。

事務局 : 「なすから英語塾」の実施については年間200人を目標に取り組んでいる。来年度からは、山あげ行事のユネスコ登録などによる外国人の来訪・おもてなしを見据えた「ガイド養成クラス」の設置に取り組みたい。併せて、観光と結び付けた「るぶ那須烏山」の英語版作成も進めているところ。「英語検定試験の検定料助成」は人気があり、目標値である合格率の数値も伸ばすように設定している。一方で、全生徒を対象とした「ラジオ講座の視聴」に対する助成については、取り組み意識の差が激しいなどの課題もあり、希望者のみを対象とするような改善が必要だと考えられる。

- 委員 : 将来的には取り組み意識の部分を充実させることが大事である。以前の西那須野町などでは、校内の至る所に英語の表示板が掲示され、学校全体での取り組み意欲が感じられた。英語能力の向上を図るため、先進事例にある2～3日の間英語だけで生活させるような研修を実施することは考えられないか。具体策が不十分な印象を受ける。
- 委員 : 日光をはじめ外国人が多い場所に直接出向き、英会話を実体験することができる機会を定期的に設けるべき。外国人を怖がらないためには、年齢が小さい頃からの実践が大事である。
- 委員 : 山あげ行事がユネスコに登録されれば外国人が訪れる、というような外国人観光客が増えることを前提とした記載が気になる。その行間には果たしてどんな戦略・方策があるのか。希望的な観測だけが述べられているように受け取れる。
- 事務局 : その点については検討を進めていきたい。
- 委員 : 本当に外国人観光客が来てしまったらどうするかという視点もある。彼らには足がない。レンタサイクルの準備やWi-Fiを活用したタブレットによる観光案内の実施など、具体的な対応策を考える必要がある。
- 委員 : 「個性を活かす教育環境の充実」について。全国的に格差社会が顕著となり学校教育の現場は苦勞している。継続的に対応を検討してほしい。また、発達障がいを持つ子どもの数が増えていることから、対策を考える必要がある。本市では学校内に「すこやか推進室」が設置され、アレルギーに対応した給食を実施するなど、他市に先駆けて実施していることをPRできると良い。
- 全体を通して—
- 委員 : 総合的な内容を網羅する形の総合戦略においても、それぞれの取り組みに強弱の差があると思う。今回の総合戦略の中ではこれだ、というものが必要になる。那須烏山市のイメージとしては、山あげ行事・アユ・和紙・東力士のほか、英語教育やマンガに加え、野球熱が高い、医療体制が充実しているなどの特性が挙げられる。外国人観光客への対応については、多くの来訪者が訪れる日光に近いこともあり、本気に取り組むことでその1割でも本市に立ち寄ってもらうことができれば大きな可能性となる。10ページの「県立烏山高等学校との連携」については、本市の英語教育の動きと歩調を合わせ、英語学科の設置などが検討できれば、全国的に知名度が上がり大きな成果となる。もしも3年以内に野球で甲子園大会に出場できれば、NHKの全国放送により良いイメージづくりの効果も得られる。「地域医療体制の充実」については、那須南病院の医療体制が充実しているという話を地元のお医者さんから話を聞いている。ここで治療ができなければドクターヘリで獨協医大まで12分で搬送できるとのこと。高齢者が増える中で、医療の優れた地域であるということをご公にPRできると思う。
- 委員 : 金融機関の視点から。烏山駅前の整備構想や中心市街地の活性化など、長期にわたる取り組みについては、市内にある4つの金融機関が連携して何かお手伝いできればと思う。益子町に開設された道の駅などでも、第3セクターにより町と金融機関が相談しながら施設を運営する協働体制が整っている。Uターンの動きを促す件については、高校生に対する教育が重要になると思う。気持ちが揺れ動く高校生の段階から、大学卒業後について考えてもらうことも大切である。こうした那須烏山市の将来に関する議論の場に、先生やPTAなどの学校関係者に参画いただくような連携も検討すべき。

もう一つ、ふるさと納税について。本市は平成26年度に27件とのことだが、大田原市では2,600件で2.2億円の納税がある。こうした寄附金は有効活用できる。力を入れたほうが良い。

委員 : 起業家の多い宇都宮市などは、商業高校や工業高校の出身者が起業するケースが多い。高校への英語学科の設置はかなりハードルが高いが、併せて商業科・工業科の設置なども地域の課題とできれば。

以上